



# 横浜陶芸友の会だより

第 192 号  
令和 7 年  
2 月 28 日 発行

## 「来年度の総会について」

横浜陶芸友の会 会長 鍋島 弘義

「横浜陶芸友の会」の会則は「会計年度は毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日迄とする。」となっています。



今年度、最後の「役員会」が 2 月 8 日（土）に行われました。

そこで、来年度の「総会」の持ち方について提案いたしました。

### （提案）

- ・ 次回の役員会后、休憩をはさみ「総会」を行う。 ① 役員会（15：00～16：30）
- ② 休憩（30分） ③ 総会（17：00～18：00）
- ・ 役員会が伸びた場合、休憩時間で調整する。
- ・ 「総会」の資料は、役員会で使用したものを、そのまま利用する。
- ・ 役員会で訂正等があれば「総会」の中で修正してもらう。
- ・ 準備する資料は ① 各部の活動報告と活動予定 ② 決算報告と予算（案）
- ③ 会則の改訂 ④ 新役員紹介 等

この提案は、役員会で承認されましたので次回、**4月26日（土）の午後5時から「総会」**が開催されることになりました。

高齢化のため退会される方も増え、会員数も減り、会の活動も難しくなってきたため、少ない人数でも何とか維持していくための提案でした。ご理解ください。

会員数の減少は今回の「作品展」でも平日の午前中の当番が一名という日がありました。午後から一名参加され二名になりましたが、来年度の「作品展」でも同じ事が起きそうです。この「作品展」も 50 回を数えるまで存続させたいのですが、これから先の事は誰にも分かりません。

会員の皆様も、今できる事を楽しみながら日々充実させて過ごしましょう。今年度の作品展では、小学生の明るく元気な声が聞かれ、楽しかったですね。

## 「役員会」報告

2 月 8 日（土） 15 時より、会長、副会長、各役員 7 名の出席で話し合いました。

## 《 議題 》

### 【 各部からの報告 】

#### 総務部

- 会長より次回 4 月役員会后に「総会」を行う提案がなされた承認されました。
- 会則の一部改訂の提案
- 釉薬等の搬送代について
- 関東学院大学での「展示・教室」への参加について

#### 会計

- 各部の会計報告と会計監査をおこなう
- ・ 議事終了後に行いました。
- 4 月の役員会で「決算・予算案」を提案し「総会」で承認を得ます。

#### 広報

- 会報の発行（2 月下旬 予定）
- ※ 「総会」の案内、「作品展」の報告、「第 44 回作品展」の作品紹介 等

#### 事業部

- 「第 45 回作品展」の報告
- ※（詳細は事業部よりの欄を参照）

### 【 次回の「役員会」 】

4 月 26 日（土） 15 時から  
（場所） 杉田地区センター

### 「総会」

4 月 26 日（土） 17 時から  
（場所） 杉田地区センター

### ○第45回「作品展」事業報告

事業部より

【会期】令和7年1月14日(火)～19日(日)

【会場】かなつくホール A室

【出展者数】13名 (前回 12名)

【出展作品数】203点 (前回162点)

※専修部・特設コーナー・小学校の数を含む

【特設コーナー】課題「角皿」11点

「専修コーナー」13点 「小学校28点」

【来場者名簿 記入者数】

145名 (前回90名)

【懇親会】参加者 8名(「木曾」にて開催)

【会場当番】平日、当番が一名の時もありましたが、現状やむなしなので、搬入時に

呼び掛けてお手伝いをお願いする。

【その他】

・今年度は小学生の作品も展示され

土日は親子での見学者で賑いました。

【出展料】一区画(幅45cm)で継続する。

【展示会場】来年度も「かなつくホールA」

で行う予定です。

(特設コーナー「課題」)「飯茶碗」です。

作品の大小は問いません。

○関東学院大学の「関キャンfes」

令和7年11月1・2日と行われます。

連絡があれば参加の方向で検討します。

### 「役員会」《議事》

#### 「総務部」会長より

○「友の会会則」の見直しについて

・昨年度の「総会」で会則の改訂を行いました。が会則に「会計部」の文言が残っていました。「会計部」は会則から無くなりましたので「総務部会計」に書き換える提案がなされ、了承され「総会」に提案します。

○「定期総会」を別の日に行わず、4月の

「役員会」の後に行う案を検討しました。

その結果、「総会」と「役員会」を次のように設定いたします。

令和7年度「定期総会」

【期日】令和7年4月26日(土)

午後5時～6時

【場所】杉田地区センター

【議題】

①各部の活動報告と活動予定

②決算報告と予算案

③会則の改訂

④新役員紹介 など

「役員会」の開催は

令和7年4月26日(土)

午後3時～4時半

#### 「総務部」会計より

○役員会終了後、「作品展会計」の監査を出席者全員で行いました。

○各部の「会計監査」についても同様に行われました。

「総務部会計」「事業部会計」「作品展会計」

「会報印刷代」の監査が行われ、一部追加については次回役員会に提出する事で全ての監査が終了いたしました。

○4月の役員会で「決算・予算案」を提案し「総会」で承認を得ます。

○令和7年度の会費納入者は、19名です。

○会員からの釉薬等の提供による搬送代は「専修部の陶芸材料購入費」として了承されました。

#### 「総務部」広報より

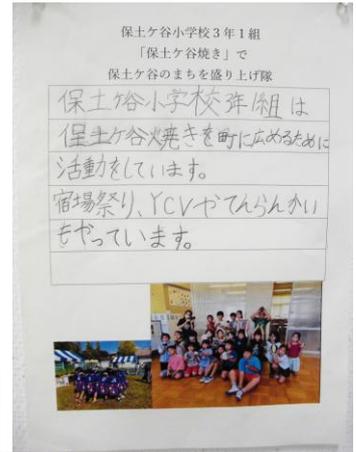
○次回の会報発行は2月下旬の予定です。

内容は、

- ・今回の役員会の議事報告
- ・「総会」日時・場所等の案内
- ・「第45回作品展」事業報告
- ・「第44回作品展」残りの作品紹介 など

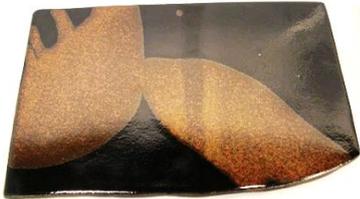


保土ヶ谷小学校の取り組み紹介やアンケート箱や作品への思い等が書かれ展示されていました。



「第 45 回作品展」保土ヶ谷小学校生徒作品と掲示物

保護者と一緒に沢山見学に来てくれました



「平皿(大)」  
信楽土 電気窯 黒天目・朱鉄



「平皿(正方形大)」  
信楽土 電気窯 黒天目・黄瀬戸  
※焼成時割れてしまったので金継ぎを施す



四角いケーキを焼くお友達にお皿をあげたくて四角い皿に挑戦しているんですが、何時も割れちゃうんです。これは一昨年の焼成会で焼いた皿です。黒天目に朱鉄を掛けて上のようにやりたかったのですが、間違えて黄瀬戸を掛けてしまいました。黒い所に透明だから色が出ないと思ったら、こんな素敵な柄になった。気に入っていたが割れていたの、高橋さんに教わりながら金継ぎに挑戦しました。しかし、全然乾かなくて凹んでしまうし、一年がかりでやっと乾いたが、ちよつと凹んでいるので、これでいいのかわかどうかわかりません。

漆を盛り上げて削ると教わったので、もう一度やってみようかな？と、思っています。

「第 44 回作品展」 深川貴子



「アクセサリ置き」  
信楽土 電気窯  
下絵具・透明釉



「花器」信楽土 電気窯 白萩  
「土笛(3点)」信楽土 電気窯 下絵具・透明釉



「小鉢(2点)」信楽土 電気窯 青白交趾  
「小皿(3点)」信楽土 電気窯 オパールラス



笠間の陶芸展に行った時にでかくてうねうねしたのがあって、「うわすごいな。」と思って、それをまねしてやってみようかな。と思いきや、それを付けてサボテンのようないメージでアクセサリ置きのような物が出ればいいな。と思って作ってみました。

緑色は下絵具です。小皿は焼成会で焼いてもらったのですが、葉の模様があまり出なかったが綺麗にできて、今年の正月に早速使ってみました。

「第44回作品展」 鈴木和子



「花器(手付)」 信楽荒目 穴窯 自然釉  
「花器」 信楽荒目 穴窯 自然釉



「びわ葉皿(2枚)」 信楽  
穴窯 自然釉



「いちょう箸置き(3枚)」 信楽  
電気窯 織部釉



「ぐい呑(3個)」 信楽 穴窯  
自然釉・織部



「鍋用具付小皿(2枚)」 信楽荒目 穴窯 自然釉



「土鍋(中蓋付)」 鍋用土 電気窯(1180℃) 黒釉  
「土鍋(中蓋付)」 鍋用土 電気窯(1180℃) 黒釉

今年、たまたま自宅で使っている釜が壊れてしまったので作ってみました。本橋さんの所から土鍋用の釉薬と土をもらった。

焼成温度は1180℃なんです。が、釉薬は白と黒があったので、白はどんぶりに使い釜には黒を使いました。

釜を作った感想は、蓋の丸み、盛り上がりがあるか無いかで相当焼き加減が違うことが分かりました。自宅にあったものと焼き比べをしたら今度の作った蓋の方がふつから美味しく焼きあがりました。高さにして1cm位の差なんです。蓋の部分にこもる蒸気が違ってくるのではないかと思います。

米研ぎを30分前にして、弱火で5分、強火にして5分。2合だと10分で焚ける。その後15分蒸らす。その前に蓋を開けると周りにご飯がくっついてしまう。それが15分待てばお焦げになっていてもきれいにくっ付かずに取れる。そういうことがわかってきました。ただ、焼き合わせのご飯はどうしても焦げてしまうので電気釜で焚いています。珍しく素直に昔ながらの形で作ってみました。

この釜は被せて型を取り土の柔らかいうちにひっくり返す方法で表に形が出るようにしています。



「外したところ」  
実は、素焼きではがれてしまった。本来は一体だった。



「左側面」



「正面」



「右側面」

「置物(教会)」 水簸土 電気窯 トルコ青 透明釉

山手のカトリック教会の写真を撮り、二年越しで完成しました。屋根はトルコ青を刷毛で縦、横三回塗っています。端は撥水剤を塗って流れるのを防いでいます。

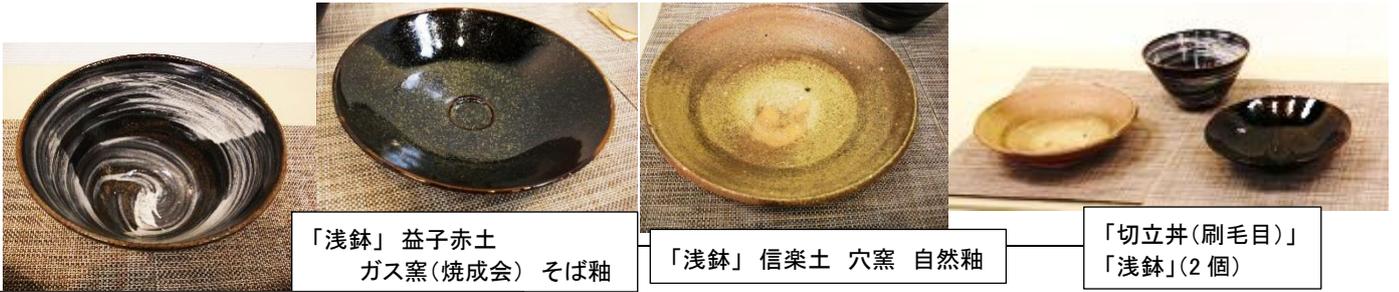
「第44回作品展」 吉川 勝 ①

「茶碗(おかめ絵)」 信楽 2 号 電気窯 透明釉  
「コップ(3 点)」 水簸土 電気窯 茶マット 糠白 織部釉

おかめの茶碗は筆が入らないので奥さんが使っている油絵用の筆を切って使いました。こんなことをして遊んでいます。  
キノコのようなコップは鈴木さんのシールのマスキングをまねて作ったが、シールをつけたまま焼いたら失敗したので、これはちゃんと剥した二代目です。釉掛けは外の茶マットが先で中の織部を後から掛けています。



吉川勝 ②



「浅鉢」 益子赤土  
ガス窯(焼成会) そば釉

「浅鉢」 信楽土 穴窯 自然釉

「切立井(刷毛目)」  
「浅鉢」(2 個)

「切立井(刷毛目)」 信楽赤土 ガス窯(焼成会)  
鬼板 白化粧 土灰透明

そば釉の「浅鉢」は高台が無く持つところが無かったので鈴木さんの道具を借りて掛けたので均一に釉薬が掛けられました。  
「切立井(刷毛目)」は生掛けで鬼板を塗ってすぐ白化粧を塗っています。



「第 44 回作品展」

本橋昭彦 ①



「ぐい呑」 備前粘土 穴窯焼成 自然釉  
「片口汁注」 備前粘土 穴窯焼成  
自然釉  
「飯椀」 備前粘土 穴窯焼成 自然釉



「小土鍋」 信楽粘土+ペタライト  
鉄絵 耐熱釉薬 電気窯焼成



「湯飲み」 備前粘土 松材は使用せず榎木  
(榎い木)だけで穴窯焼成 自然釉  
「小葉 取皿」 備前粘土 穴窯焼成 自然釉

# 陶陶さん

第 114 号

あかほし



「輪花 大鉢」 備前粘土  
穴窯焼成 自然釉



「片口 大深鉢」 信楽粘土 粉引化粧  
透明釉 電気窯焼成

本橋昭彦 ②



「四角 大皿」 信楽大原粘土(荒)  
ボタ餅 穴窯焼成 自然釉  
「ピアマグ」 備前粘土 穴窯焼成  
自然釉  
「割り山椒小鉢」 信楽白土 黄緑釉  
電気窯焼成



「木葉天目長皿」 信楽粘土 棕の木葉  
黒天目釉 電気窯焼成

枝まできれいに残った木の葉天目。確信は持てないけど、偶然に出来たのかな。  
5枚焼いて1枚できた。どうやっても他の物は葉っぱが全然出ないんだよね。  
11月 下旬頃に取った生の葉を使った。(水ガラスにつけてやるようなお話を聞いたのですが?) 水ガラスかCMCか、ちよつと自信が無いから、今度もう一度やってみようかな。

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより  
第 192 号  
(令和 7 年 2 月 28 日発行)  
(発行人) 横浜陶芸友の会

## 【編集後記】

・「第45回作品展」は保土ヶ谷小学校の生徒作品も展示され、土日は保護者と一緒に見学に来られ賑わいを見せていました。  
また、最終日には担任や校長先生も見えられ、なんと校長先生の剣玉の妙技まで見せていただきました。ありがとうございました。  
・今年度最後の会報に「第44回作品展」の紹介が二人掲載できませんでした。次回の会報に掲載することになります。  
作品を大きく見やすくするために、紙面を多く使ってしまった。  
ご了承ください。  
・今年度も皆様のご協力により無事に会報を発行することが出来ました。  
ありがとうございました。  
来年度も皆様よろしく願っています。

鍋島弘義